

# 災害支援ナース活動報告書

報告者：大淵美保

所属施設：新潟県立十日町病院

報告月日：令和6年1月24日

活動日	1月18日(木)～1月21日(日)
活動場所	施設名：珠洲市正院小学校 避難所
活動内容	
<p>避難所状況：避難者122名→106名(児童4名)、教室やプレイルーム等計8か所で各部屋10～15名で避難中。グラウンドで車中泊者あり。3階教室で学校再開。体育館で救援物資管理、雨漏りあり。海から200m、体育館裏の山は土砂崩れ。電気OK、給水タンク、仮設トイレ、炊き出しあり。コロナ陽性者隔離中だったが1/18で隔離解除。食中毒と思われる下痢の方数名あり。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 情報共有 災害対策本部(避難所内)で毎日ミーティングの参加。PWJ(空飛ぶ捜索医療団)、JRAT(リハビリ)、薬剤師会、熊本保健師、防災士など多くの職種と情報交換した。</li><li>2. 避難者の健康管理と健康維持増進活動 前任者が作成したカルテからの情報収集と、必要時バイタルサインチェック、有症状者はPWJの医師診察へと繋げた。内服薬の処方切れや一包化再調整依頼などの対応。厚労省からの市販薬の管理(支援ナースの判断で与薬)。車中泊者含めて避難者の健康チェック。夜間オンコール体制で有症状者の対応。 PTと協働しシルバー体操実施。避難所で継続できるよう、民生委員長兼シルバーリハビリ体操3級指導士に可能な範囲で継続していただくよう依頼。</li><li>3. 避難者の心のケア 話を傾聴。PWJより1. 5次避難や2次避難を避難者へ説明するよう依頼を受け説明するが、地元から離れたくないという方が多くあまり勧めることが出来なかった。</li><li>4. 避難所内外の環境整備 校舎内の散乱ガラスの片づけや破損が予測されるガラス戸の補強作業。ダンボールベッド作成。</li><li>5. 感染防止対策(コロナ、インフルエンザ、感染性胃腸炎、食中毒など) 次亜塩素酸ナトリウム溶液によるトイレ掃除。歯磨きうがい箱の交換。各部屋の換気。 食中毒に気を付けるよう食糧管理の声かけ。(古いものは食べない。炊き出しの食事はその日のうちに摂取)</li><li>6. 救援物資(PPE、市販薬等)の数量把握と管理</li></ol>	

## 所 感

発災 18 日が経過しての派遣であった。当避難所は発災当初は 300 名程度の避難者がいたが、派遣当日は 122 名、派遣終了時は 106 名と、毎日数名ずつ二次避難していた模様。混乱期を經過し、避難所には ADL 自立の避難者がほとんどであった。ごみ収集、トイレ掃除など当番制で行っていたが、トイレの使用方法が守れない方もいて、掃除担当の方はストレスが蓄積され口論になっている場面もあった。うまく運営できるよう支援することも支援ナースの役割なのかと感じた。避難者の負担感を考慮しつつ、避難所生活が自立できるよう支援していく必要がある。災害関連死防止や感染症蔓延防止の活動も必須であり、感染症有症状者の把握と検査、必要時隔離、持病の悪化防止のための健康増進活動も開始できた。避難所自体が海から 200m、津波時の避難する裏山は土砂崩れしており、二次災害が起こる前に避難所の在り方を再検討していただきたいと思った。

新潟県看護協会 e-mail : saigai-shien@niigata-kango.com